

# ～久慈のヤマブドウブランド化に向けて～

平成28年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：久慈地域におけるヤマブドウを核とした地域づくりについて

研究代表者：高等教育推進センター 教授 劉文静

課題提案者：岩手県北広域振興局農政部

研究メンバー：川守田真紀（岩手県北広域振興局農政部）、阿部いづみ（現所属：総務部 人事課付）、田口礼人（現所属：農林水産部農業振興課）

技術キーワード：地域づくり、経営戦略、認知度向上、支援策、ヤマブドウ

## ▼研究の概要（背景・目標）

久慈地域のヤマブドウ栽培面積は日本一であるが、ブランド力はまだ弱い。そのため、久慈のヤマブドウのブランド化を目指し、本研究では現状把握として「現場側（生産者、加工業者、行政など）の意識調査」を実施。

## ▼研究の内容（方法・経過）

質的調査法（聞き取り調査、アンケート）により以下3点を調査する。

- A) 久慈地域のヤマブドウ振興の現状と課題について探る（現場側の意識調査／表1）
- B) 地域特産物の先進地を視察し、久慈地域と比較する（現場側の意識調査／表1）
- C) 若者を対象とした意識調査（市場調査／岩手県立大学の学生）

※Cは次段階の市場調査の予備調査である

## ▼研究の成果（結論・考察）

- A) 当初目的としていた販売促進よりも、生産・供給への支援策の模索が急務。
- B) 青森のカシスは海外から持ってきた苗を定着させて生産拡大および商品開発しているということがわかった。
- C) 「ヤマブドウ」は知っているが、久慈地域が日本有数のヤマブドウの産地であることを知らない、ということがわかった（図1）。また、既存商品のパッケージに不満があることもわかった。

表1. 現場側の意識調査における調査対象

|   |   |   |
|---|---|---|
| <br>久慈地方<br>ヤマブドウ振興協議会 | <br>野田村山ぶどう生産組合   | <br>産直花野果及び<br>産直まちなか      |
| <br>(株)佐幸本店            | <br>(株)のだむら       | <br>涼海の丘ワイナリー              |
| <br>(有)沢菊             | <br>(一社)大野ふるさと公社 | <br>イオンリテール(株)<br>東北カンパニー |
| <br>洋野町の生産者          |                 | <br>あおもりカシスの会<br>【先進地】   |

Q 久慈地域が日本有数のヤマブドウ産地であることを知っているか？

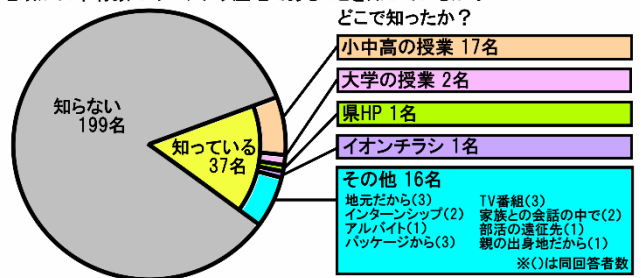


図1. 若者を対象とした意識調査

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 今後は「生産拡大の可能性」、「生産組織の会社化および後継者問題解決の可能性」、「農地・畑地の集積の可能性」について検討することを提案する。
2. 現時点でできる販売促進方法は「パッケージの改良」であると考えており、若者向けの「かわいい」、外国人向けの「日本らしさ」、商品価値の希少さ、などを取り入れた見た目にすることを提案する。
3. 今回の協働研究において、先進地視察を含め、関連機関、団体、企業、および個別農家などに、多大なご協力をいただいたことを、チーム一同を挙げて厚く御礼を申し上げる（謝辞）